《総　説》

# 核医学による心臓の代謝と機能の評価

長谷川新治*　　西村　恒彦*

* 大阪大学医学部トレーサ情報解析

**要旨**　$^{99m}$Tc 心筋血流製剤を用いることにより心筋血流と心機能の同時評価が可能となりつつある．心電図同期 SPECT においては wall thickening や最近普及し始めた Quantitative Gated SPECT (QGS) による壁運動評価法が臨床的に有用視されている．また，first pass 法では負荷中の心機能評価が可能であり，虚血の診断などに補助的な役割を示している．一方，心筋代謝の評価も注目されており，$^{123}$I-BMIPP による心筋脂肪酸代謝の評価は虚血性疾患を始め様々な疾患に応用されつつある．また，$^{18}$F-FDG PET による心筋糖代謝の評価は心筋 viability の指標として有用であるが，その普及のためガンマカメラによる撮像が試みられるようになってきた．

(核医学 **36**: 209–217, 1999)